



おちほ

第29号 平成9年8月10日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



天までとどけ!

みんなの願い

見て下さい、この笑顔。七月六日に寮で行われた七夕フェスティバルでの一コマです。行事には(?)力を入れる落穂寮。七夕も例外ではありません。今年も新人職員が中心となり、毎晩遅くまで劇の練習に取り組みました。睡眠時間を削っての練習ですから、つらい時もあります。でも、寮生さんの笑顔を見ると、頑張らずにはいられないのが落穂寮の職員なのです。

練習の甲斐あって、七夕にちなんだ劇は皆の笑いを誘い、大成功。そして一番寮生さんにウケたのは、やっぱり男子職員の「女装」でした。また今年も、寮生有志によるカラオケ大会も催され、今度は寮生さん自身が舞台上に上り、様々な表情を見せてくれました。うまく歌おうとせず、ただ好きな歌を精いっぱい歌う寮生さんの活き活きとした姿は、見ている方まで元気にさせてくれました。そして最後にみんな「たなばた」の歌をうたい、ほのぼののムードの中、ゆったりとしたひとときを過ごすことができました。

行事は寮生さんの笑顔が輝く時。そして私達はその笑顔に支えられているのだと改めて感じた今年の七夕でした。

短冊に込められたみんなの想い、天まで届きますように!

ふくむ今昔

池谷正晴君のこと 落穂寮の屋台骨を支えた人

理事長 増田正司

大津市石山南郷に落穂寮があった昭和33年秋、「職員募集」に応募して送られてきた履歴書40通から選考して、面接採用決定した1人が池谷君だ。軽装の面接者のなかで、キチッと背広を着こんですっきりと整髪した緊張気味の姿が、

いまも浮んでくる。

採用後、勤務についてから、面接時の印象とはちがって野趣ゆたかに、本領を存分にはつきし寮生の教育に欠かすことができない教育者になつていったのである。その年、定員



▶昭和36年 八瀬遊園地での池谷正晴先生

を20名増やす増築改装がおこなわれ、増員分は重度にかぎらず年少の(小・中学年)児童をうけいれ、

生活のなかで基礎教育と指導訓練をとりいれ、重度児童と交わりながら学んでいく方策が考えられた。その男子組の担当になって生活や

教育・作業に独自の創意と工夫をかさね、問題ありとみられる寮生ほど表情ゆたかな作品を、描画や版画(ガラス版画)や作陶(黒陶)につくりださせ、作品展示会で来場者に感銘をあたえたのである。寮生の可能性をみごとにひきだす、彼の指導の質の高さと情熱を知らされたのである。

しんどくも仕上げる喜びを、作業で体験させたいと養鶏をとり入れた。廃材を利用して20羽飼育の手づくりのケージができ、大津の植木市で買ってきた雛を飼いはじめた。産卵用のケージも増やし、配合肥料の計量、養鶏日誌記入、農耕など幅広い学習が展開されていった。寮生はたのしんで鶏の世界にまわっていた。毎日を据膳ですごしているのは、何

かしらの役割を分かちもって寮の生活を支えていることを実感させたい。清潔でいきいきしたわが家の寮の生活に職員も汗を流すとき、寮生もついてきてくれる。

人一倍汗かきの彼の顔も背中もいつもびしょぬれで、寮生はその流れる汗をみてどれだけ学んだかわからない。彼が就職してからの20年間は、寮の建設と発展のために心身ともにきつい毎日だったが、いつも先頭に立って推進役をつとめてくれた。その情熱と知恵が寮を支えるバックボーンになっていったと思う。

(97・7・8)

ふくむ今昔

建築計画を仕切り直す

寮 長 山下 陽 一

再びタンタロス

の飢えと渇きの罰から逃れることができないという神話です。

まったことのようなのです。

このような査定は今までにない

この状況を説明しましたが、建設が一年先にのびただけという考え

前回発行「おちは 第28号」の私の文章のタイトルは「タンタロスの飲水」でした。タンタロスはギリシャ神話に登場するのですが、彼の並外れた悪行に父ゼウスは激怒し永劫の罰を科しました。その罰とはタンタロスに食物や飲物を与えぬまま放置し、彼は飢えのため手を伸ばしりんごを取ろうとすると、枝は静かにゆれてタンタロスの手から遠ざかり、再び手を伸ばすとまた遠ざかるというものでした。それより増しての苦痛は喉の渇きでした。澄んだ川の中に立っていないながら、その水をすくおうとしたり、かがみこんで飲もうとすると水が去ってゆくのです。飢えや渇きに苦しみながら、りんごや清水を目の前にしていても、永久

落穂寮の改築計画が進んでは行き詰まっていたのを絡ませてこの神話を持ち出したのですが、六月

必要なる事業とし、国の補助事業として挙げた場合はほぼ実施されるものでしたが、今回はかなり色々な方面で削られているようです。

働きかける時間ができたものとして捕え、さらに施設建設にむけてまい進しようという提案を受けました。私達も施設の整備は欠かすことができないものであることを訴え、来年こそ必ず建築を実現するという意気込みで、今年提出した事業の内容、資金の計画などをもう一度見直して、現実性ある計画に組みあげ再提出するつもりであります。一年延長されたことにより多方面にご迷惑をおかけすることになります。引き続き建築に向けてご支援とご協力をお願いいたします。

一八日、施設建設の最後の関門であった、国のゴーサインを受けることができませんでした。今までの経過からはほぼ間違いないものと思っていたので、まさに「晴天の霹靂」の思いでした。急きよ県の説明を受けたところによると、今回の国の補助は事業全般に渡りかなり厳しい査定だったようです。

この国の補助事業から漏れてしま

これは政府の財政再建の方針にあるように国の財政赤字の削減の余波やおおを受けられているものだろうと思えます。

たわけてはありませぬ。来年度事業として再び建築計画を提出しますが、保護者会の役員の方々に

改築の実現にむけて

国の補助を出す基準としては、福祉のエリアにまだ整備されていない施設を優先したということ、落穂寮の場合は福祉圏にたくさん施設があり、現在施設に入所し生活している状態であることから、今回の国の補助事業から漏れてしま

今日まで進めてきた建設計画が宙に浮いてしまった結果になりました。しかし、落穂寮が示した事業計画に問題点がありほごになっ

たわけてはありませぬ。来年度事業として再び建築計画を提出しますが、保護者会の役員の方々に

活している状態であることから、今回の国の補助事業から漏れてしま

今日まで進めてきた建設計画が宙に浮いてしまった結果になりました。しかし、落穂寮が示した事業計画に問題点がありほごになっ

たわけてはありませぬ。来年度事業として再び建築計画を提出しますが、保護者会の役員の方々に

活している状態であることから、今回の国の補助事業から漏れてしま

今日まで進めてきた建設計画が宙に浮いてしまった結果になりました。しかし、落穂寮が示した事業計画に問題点がありほごになっ

たわけてはありませぬ。来年度事業として再び建築計画を提出しますが、保護者会の役員の方々に

三年後の



親の会会長 堀 玲子

今回、国の財政縮少という思わぬ事情により、皆が待ちに待っていた落穂寮の成人施設への移行が見送りとという残念な結果をみてしまいました。

生来あわて者の私は県の審査が通過すれば、国の審査も当然通るものと思いき、恰も成人施設が出来る様な言動を走り、御協力いただいた皆様には、私共の力のたたりなかつた事を、心よりお詫び申し上げます。

た事を、心よりお詫び申し上げます。今、今回は落穂寮だけでなく、各県とも見送りが続出との事、何とかならぬのかと思っております。

年度で取り組みましようという事です。先生方今まで以上に情熱を持って取り組んでいただいていますし、その間、図面上や計画の上、多々手直しする面もあり、もう一度じっくり練り直し、今以上の物にしたいとはとらきっております。私共、我々努力の果として、ますます以上の努力と協力をお願いします。最高のものが出来る様にしたい。

DREAMS COME TRUE.

成人施設化を考える

DREAMS COME TRUE.

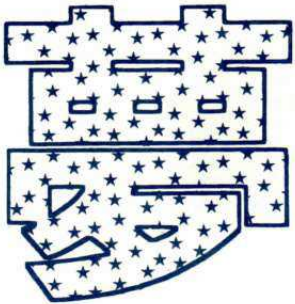
前回の「おちは一誌上で、成人化はもう大天衣を宣言したのだが、まことに残念なこと、最後の最後で今年度は見送り、という事になってしまいました。前例のない事ではあったとはいえ、重大な事を、推測で皆さんに報告してしまつたことをお詫びします。申し分けありませんでした。

しかし、これで完全にダメになったわけはありません。「もう一年待ちなさい」ということでは、私達の夢は、なくなつたわけでは

ありません。「もう少しの間、我々も、性急な事を、この一年で大きく可成るのではと期待しています。それにしても成人施設への移行を検討し、その方向性を持ってから、何年待たされたのでしょうか。やつと、夢が実現すると思つていただけに、本当の残念です。「どうしてだらうか」といついっと思つてしまいますが、ここは、さらに「よりよい施設にする為に、皆様がさらなる試練を与えてくれたのだと、プラス思考で考え、来年一度に向けて活動していきたいと思つています。

移行に進めるようにしていきたいと思つています。考えても、考えなくても、悩んでも、悩んでも、皆さんの生活に、これで充分というのではないのですから……。さあ、明日も元氣よく、寮生さんには「おはよう」と声をかけ、生活の合間に新しい施設の話をしてもらふ。まだ、私達の夢は終わっておらず、その夢を思つて、寮生さん達は、落穂寮で生活しているのだから……。明日もまた。

主任指導員 佐藤 三博



をあきらめないで

ふれあい活動 落穂寮に行つて

一年四組五十五番 島田 瞳

「ふれあい活動」その言葉を聞いたとき私はすごく不安な気持ちになった。私は障害者だったと話しただけであつたらしいことがない。だから自分はしつかり落穂寮の人たちと楽しく交流できるのかすこ心配だった。

前日まで、落穂寮に入らないうり日になった。生けん命準備として入った。最初は不安の気持ちでどこかへとんでいった。そしていよいよ落穂寮の人たちが笑顔でむかえてくれたから。私はこのとき人間はずっとどういふ人なのでもふれあつたことばっかりと大それた事なんだなと思つた。

いよいよ交流が始まった。私の目の前にいる人みんな同じじゃないと思ひ、楽しく交流しようという私の決意が生まれた。

私は竹組のみんなと交流した。始めに自己紹介をしてから私達がつめた名札をわたした。竹組のみんなはすこくうれしそうに笑つてくれたから私までうれしくなつた。私は結び織りの作業を見

学した。これまではしやでいた。寮生さんが一生けん命に仕事してらるすかたを見て私はこんながらんばつて仕事をしていることを知らず正直いって少し障害者もつたりんたことをこれがたり同じ人間なのにちがう見方をしていたことに私は自分には見方が違つて、自分が他の人たちにこんな見方をされて

いたと知つたらすこい女の性に自分は今までこんないやなことをしてて信じてたくしけれど事実だった。同じ人間とてこれからは合つていけるようになりはりたい。私は話しかけることはできなかったけどおたいたい笑顔で半日過ごせたことがすごくうれしかった。

今年も、石部中学校一年生の生徒さんが、ふれあい活動という事で、落穂寮に来れました。当日はとて暑かつたのですが、そんな中、それぞれ色々な事と思ひ、感じ、体験してくれたようです。今回も、その中のほんの一部ですが、御紹介したいと思います。

交流会

石部中



自転車をとばしながら、落穂寮へ向かう。そう、今日は、ふれあい活動の日である。どんな人たちがいるのか、どんな生活をしているのか。私は、そんな気持ちでありながら、少し不安であつた。自分が気に入つていけるのか、相手と仲良くやつていけるのかなどという気持ちもあるが、やはりどうしても、こりうしうしとふれあひのは、どうも気が進まなかつた。

「ふう、やっついた。こんな所にあるのか。」

つづついった。最初目についたのは、道ばたであんなにいる、いかに障害者って感じの人と、その人とおどんで二人のふつと女の人のあつた。どうしてもさけてしまふ。ふつと寝てることだてできない。いちはお、頭をさげて、あひさつたもの、どうしてもしやな態がつづつのであつた。それは、あきかん拾いが始まるまでつづいた。いかに二三四才ぐらいの人がする、とんだり、

その辺おちているものを、何でもつたう、よだれをたらしたりなどいふこと、大人の人があつていたのだ。話しかけてい人もいたが、その言葉がどういう意味をもつて、いふか分からないような言葉だったので、友達とどうも不安があつていた。

私が、いっしょにあきかん拾いをする班は梅組であつた。自己しよを分された時に、私たちはその人に名札とブラッパンをあげるこになつていた。自己しよを分されてい時であつた。もうすく自分の番である。何だかとてもこ

ていたら歩行にでかけた人が帰つてきて一人の人が私がけすつているのを見てすくだけけすつてくれなすくうれしかった。

交流がおわつて私が落穂寮の人に字などとは教えきれないほどたくさんある。けれど一番私が強く感じたのは言葉にはあはせないけど心と心が通じ合うとうこととは本当に今中学校にいてこの作文を書いているのまわりの人からささえられてきたかだと思ふ。だから次はささえられるじやなくてささえていける人間になりなう。そして今回の交流でもおわつたけれどもいろんなことをいっしょにやつていけることと思ふ。私は将来保護士になりたいと思つていて、だからこの交流をいかにして保母さんになつたらしつかりがんばつていけるようにしたい。今日はほんとうに私自身充実した平日だった。これ以外のも落穂寮の寮生さんのおかげだと思ふ。また落穂寮にも遊びに行きたい。自分の心も豊かになつた。今落穂寮の人に会ひたい。ほんとうに今日はありがうございました。

よりも、ずつと強く生きていこうと思つたのであつた。次に手をつないだのは、たぶん15才ぐらいの女の子だつた。こつちがわらいかける、こつちが笑つた。ときどき、興味もつたのか、その辺のものを見たりしていた。だれにしているのか、手をつないだりしていた。なぜかは分からないが、こつちが、たのしく笑つていた。そして、その女の子もつられて笑つていっているのだ。

帰る時が来た。来た時ははちもなかつた。とても新鮮な気持ちであつた。またいつか、落穂寮に来ようと思つた。その時はどんな気持ちでここに来るのか、この人たちはどうして居るのだろうか。

私ほ、とてもたのしみだ。

ふれあい活動「落穂寮」

一年三組 江草聡一郎

ふれあい活動 落穂寮に行って

一年四組五十五番 島田 瞳

「ふれあい活動」その言葉を聞いたとき私はすごく不安な気持ちになった。私は障害をもった人と話したりふれあったりしたことがない。だから自分はいっしょに落穂寮の人たちと楽しく交流できるのかすごく心配だった。

前日まで一生けん命準備してとる日になった。落穂寮に入ったしゆんかんから私の不安の気持ちがかかへとんでいった。それというのも落穂寮の人たちが笑顔でむかえてくれたからだ。私はこのとき人間はやっぱりどんな人でもふれあったりすることがほんとうに大事なんだなあと思った。

いよいよ交流が始まった。私の目の前にいる人みんな私と同じなんだと思い、楽しく交流しようという私の決意が生まれた。

私は竹組のみんなと交流した。始めに自己しょう介をしてから私達がつくった名札をわたした。竹組のみんなはすごくうれしそうに笑ってくれたから私までうれしくなった。私は結び織りの作業を見

学した。これまでではしゃいでいた寮生さんが一生けん命に仕事しているすがたを見て私はこんなにならばって仕事をしていることを知らずに正直いって少し障害をもった人たちのことをこわがったり同じ人間なのにちがう見方をしていたことに私は自分にはらが立った。もし私が障害をもっていて自分も他の人たちにこんな見方をされて

いたと知ったらすごくいやなのに自分は今までこんないやなことをしていたなんて信じたくないけど事実だった。同じ人間としてこれからふれ合っていけるようになるんばりたい。私は話しかけることはできなかつたけどおたがい笑顔で半日すごせたことがすごくうれしかった。

後半に木工のやきいたをけずつ

今年も、石部中学校一年生の生徒さんが、ふれあい活動という事で、落穂寮に來られました。当日はとても暑かったのですが、そんな中、それぞれに色々な事を思い、感じ、体験してくれたようです。今回も、その中のほんの一部ですが、御紹介したいと思います。

交流会



ていたら歩行にでかけた人が帰ってきて一人の人が私がけずっているのを見て少しだけどやすりをもつていっしょにけずってくれた。すごくうれしかった。

交流がおわって私が落穂寮の人に学んだことは数えきれないほどたくさんある。だけど一番私が強く感じたのは言葉にはあらわせないけど心と心が通じ合うということとは本当に大切ななあと思つた。私たちが今中学校にいてこの作文を書いているのもまわりの人からささえられてきたからだと思ふ。だから次はささえられる人じゃなくてささえていける人間になりたい。そして今回の交流だけでおわらずこれからもいろんなことをいっしょにやっつけていけるといいなあと思う。私は将来保母さんになりたいと思つている。だからこの交流をいかして保母さんになったらしっかりとがんばっていけるようにしたい。今日はほんとうに私自身充実した半日になった。これというのも落穂寮の寮生さんのおかげだと思ふ。また落穂寮にも遊びに行きたい。自分の心が豊かになった今落穂寮の人にお礼がいたい。ほんとうに今日はありがとうございます。

自転車をとばしながら、落穂寮へ向かう。そう、今日は、ふれあい活動の日である。どんな人たちがいるのか、どんな生活をしているのか。私は、そんな気持ちでありながらも、少し不安であった。自分が気に入ってもらえるのか、相手と仲良くやっていけるのかなどという気持ちもあるが、やはりどうしても、こういう人たちとふれあうのは、どうも気が進まなかった。

「ふう、やっとついた。こんな所にあつたのか。」

ついについた。最初に目についたのは、道ばたであそんでいる、いかにも障害者って感じのひと、その人とあそんでいる二人のふつうの女の人であった。どうしてもさけてしまう。ふつうに接することができない。いちおう、頭をさげて、あいさつしたものの、どうしてもいやな感じがづくのであつた。それは、あきかん拾いが始まるまでつづいた。いかにも二、四才ぐらいの人がする、とんだり、

中 部 石



その辺におちているものを、何でももったり、よだれをたらしたりなどということ、大人の人がやっていいたのだった。話しかけてくる人もいたが、その言葉がどういう意味をもっているのか分からないような言葉だったので、友達とで、とても不安がっていた。

私がいっしょにあきかん拾いをする班は梅組であった。自己しゅう介をされている時に、私たちはその人に名札とプラパンをあげることになっていた。自己しゅう介されている時であった。もうすぐ自分の番である。何だかとてもこ

わい。でもあげてみると、けっかうすんなりわたすことができた。その時に、自分の不安が、少しやわらいだのであった。

いよいよ本番のあきかん拾いである。だれだったか忘れてしまつたが、初めは、いちばんよく声を上げていた、四十ぐらいの女の人と手をつないだ。手はとてもあたたかかった。その時、どんな人でも、あたたかい人間、けいべつしてはいけないのだと思つた。その女の方は、しっかりと手をにぎっていた。手からあせが出てきた。しっかりと生きていて、ぼくなんか

よりも、ずっと強く生きていると思つたのであった。

次に手をつないだのは、たぶん15才ぐらいの女の子だった。こっちがわらいかけると、その子も笑つた。ときどき、興味をもつたのか、その辺のものを見たりしていた。だれにしているのか、手をふつたりもしていた。なぜかは分からないが、こっちが、たのしくて笑っていた。そして、その女の子もつられてか笑っているのであった。帰る時が来た。来た時とはちがい、不安もなければ、けいべつもなかった。とても新鮮な気持ちであった。またいつか、落穂寮に来ようと思つた。その時はどんな気持ちでここに来るのか、この人たちはどうなっているのだろうか。私は、とてもたのしみだ。

ふれあい活動「落穂寮」

一年三組 江草聡一朗

長寿・常楽の理想郷 植樹祭に参加

— 甲西・石部ロータリークラブ主催 —

五月二十四日土曜日。小雨のぱらつく中、甲西・石部ロータリークラブ主催による、『長寿・常楽の理想郷記念植樹祭』が行なわれました。この日は韓国のロータリークラブの方々が招待されていて、寮生よりも職員の方が緊張していたと思います。「うまく植ええられるだろうか。」「まわりの人に迷



▲ 記念碑の前で植樹参加メンバー勢揃い

惑をかけないだろうか。」「植え
てある樹木を引き抜いたらどうし
よう。」「葉っぱをちぎったりし
たらどうしよう。……などと考え
る事は悪い事ばかりでした。しか
し、寮生さんにとてもうれしそう
に、次々と植え、土をかぶせてく
れました。まるで、自分達がかこ
に生きているという想いを木に託
すかのように。
多勢の人の中に身を置く事に不
安を覚えると思っていた職員に、
彼らにその機会を与えて頂いた甲
西・石部ロータリークラブの皆様、
ありがとうございます。又、今
後もよろしく御願います。

映画『五等になりたい』を見に行ったよ

— 石部南小学校PTA主催 —

みなみしようの

みなさんへ

たかだ じゅん

えいがをみせてくれてどうも
ありがとうございます。ぼくは、おもしろかったし、
ちょっとさみしかったえいが
でした。だけど、たのしかっ
たです。
これからあつくなりますので、
からだにはきをつけてくだ
さい。また、なにかがあっ
たら、みなみしようのみなさ
んも、あそびにきてください。

泉

▽毎日暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。暑いといっても夏はこれからです。夏本番、元気に楽しく過ごせるよう、今から健康には充分気をつけたいですね。

▽永年の夢がようやく現実にと
思っていたのですが、成人施設建
設が延期となりました。目の前に
せまっていただけに、正直言って
ショックは隠せません。しかし、
嘆いてばかりはいられません。成
人施設化に向けて、またじっくり
考える時間が増えたのです。する
ことはたくさんあります。「夢」
が現実のものとなる時、この時間
が無駄ならぬよう、職員一同新
たな気持ちで取り組んでいきます。
これからも、皆様の御協力をよろ
しく願います。

木言

人との関わりした後、相手との
一体感がないとしたら、それは
あなたが「聞かれていない」、
あなたも相手を「聞いていない」
から。また誰かがあなたを批判
したり、攻撃したりする時は、
あなたに助けを求めている時。
目先の攻撃に惑わされず、助け
を求めている声に耳を傾け、
『相手を本当に聞く』ゆとりを
持ちたいものです。